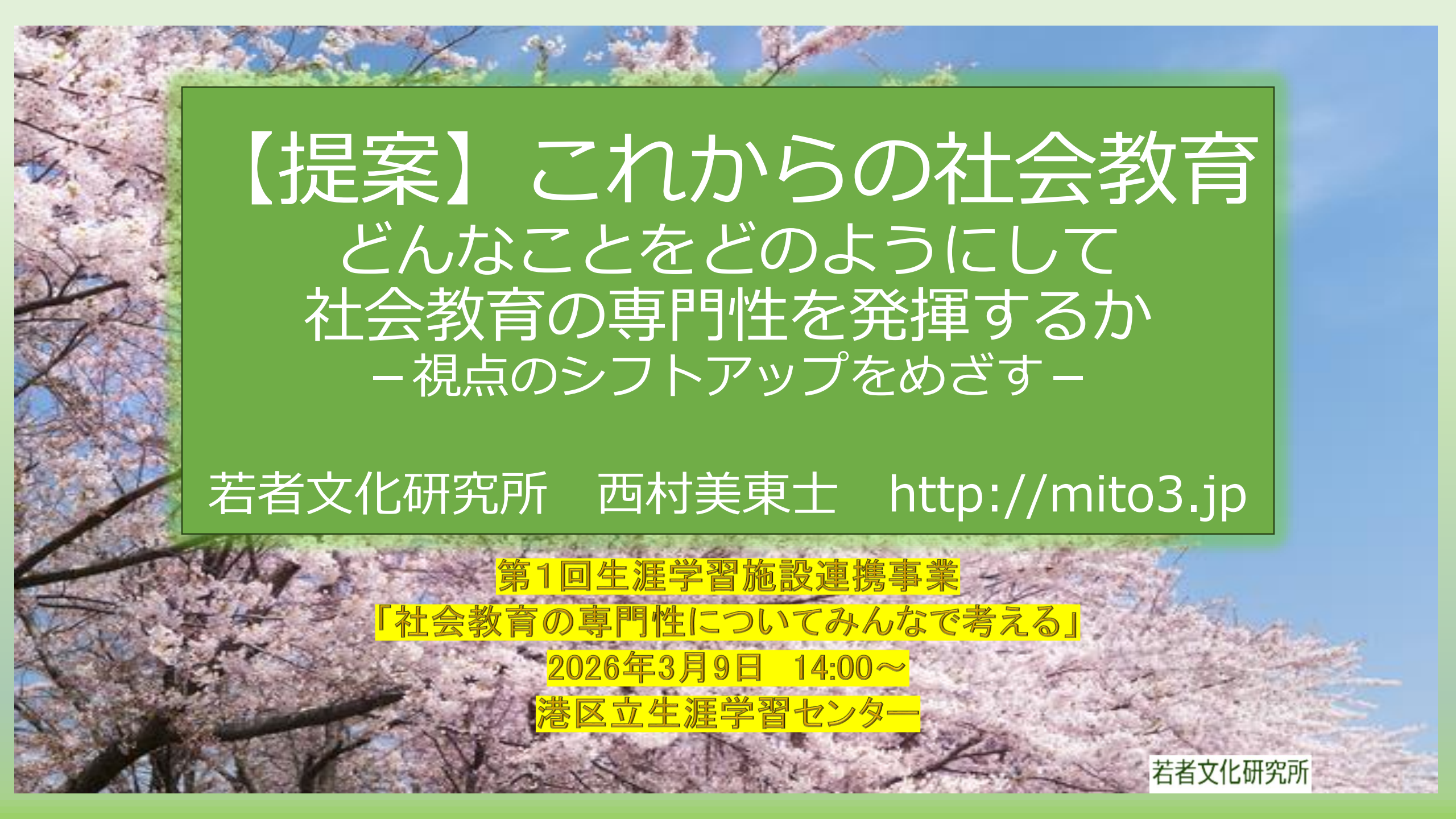




【提案】 これからの社会教育 どんなことをどのようにして 社会教育の専門性を発揮するか －視点のシフトアップをめざす－

若者文化研究所 西村美東士 <http://mito3.jp>

第1回生涯学習施設連携事業

「社会教育の専門性についてみんなで考える」

2026年3月9日 14:00～

港区立生涯学習センター

講師：西村 美東士／にしむら みとし（若者文化研究所 代表）

若者文化研究所代表（論文作成・ワークショップ支援・職業能力開発・キャリア教育・暗黙知教育）。ヘルスケア・カウンセリング学会編集長、日本子育て学会研究交流部門長、職業教育開発協会評議員。経歴：東京大学教育学部社会教育コース卒、東京都社会教育主事、国立社会教育研修所専門職員、昭和音楽大学助教授、徳島大学教授、聖徳大学教授、板橋区生涯学習センター（中高生の居場所）指導員。



私のテーマ ↓

参照：聖徳大学生涯学習研究所HP

<https://www.tunagari.jp/staff/nishimuramitoshi.html>

「生涯学習施設連携事業」 企画者の思い

- ◆ この事業は、生涯学習施設で働く中で、現場で求められる専門性とは何かわからず、一人で悩んでいた時に、色々な社会教育指導員研修に特別に参加する機会を得て、同じように現場で専門性に悩んでいる方が多くいることを知ったことがきっかけです。
- ◆ 「現場で求められる専門性」や「これからの生涯学習」について必要となることを一緒に考えていこうというつながりが広がっていく中で、自分の中でこれまで漠然としていた「社会教育・生涯学習」が少しずつ形を持ち始め、「これは大事にしたい」という小さな核のような思いが芽生えました。
- ◆ 一緒に悩んで、一緒に考えられる場があることで、きっと誰かの力になれるのではと感じています。講師の視点に触れたり、生涯学習に携わる仲間同士で交流を深めることで、皆さんの中に“自分なりの専門性”や“志”が芽生えるきっかけになれば幸いです。

講師の思い・・・つながり、広がり、深まる

- ◆ 社会教育職員、とくに指定管理者の場合は、育ててくれるしっかりした組織もなく、相談できる経験者も少なく、「行く先のわからないまま」仕事をしているということが多いと思います。でも、その分、（「**うまくやれば**」ですが）自分らしい発想で仕事ができるということです。
- ◆ 青少年教育事業については、2000年頃まで「関連文献」の全国的な網羅収集と有識者による要旨を付与した「青少年問題に関する文献集」が発行されていましたが、途絶えてしまいました。青少年教育職員の交流と、自由語検索による実践研究公開([私のホームページでデータベースを公開しています](#))として貴重な機会だったのに、と残念に思います。
- ◆ 本事業が契機となって、生涯学習センターの事業系職員が「**つながり、広がり、深まる**」ネットワークを進められるよう全力でお手伝いしたいと思います。ネットワークの一番の目的は、「職員個人」が、個性的な方向で専門性を深め、発揮することだと考えます。
- ◆ 今回の講座を契機にして、能力開発や専門性の発揮について、ネットワークでの交流を通して、より深く追求していきましょう。

今回の提案の構成

生涯学習センターの基本

- 1. 生涯学習とは何か…学習・文化・スポーツ・レクリエーションを超えて
- 2. 社会教育とは何か…主体性の尊重を超えて
- 3. 生涯学習センターの役割…生涯学習のさまざまなセンターのセンター(交流・育成・開発)
- 4. ウェルビーイング…個人からの出発、協調性というより「協働性」
- 5. らせん状発展…シフトアップ、個人化と社会化の一体的支援を
- 6. 個人完結型から社会開放型へ…世間(主観)から社会(客観)への視野拡大

人材育成

社会教育の「専門性」を生かしてどう働くか

生涯学習センターの基本

人材育成

- 7. 目標をどう立てるか…非認知能力ではなく、能力習得を
- 8. 能力マップとラダー…スキルマップでは人材育成できない
- 9. タイプ別支援…個別最適な学びの支援は可能か、そして、それ以前の状態の打開を
- 10. 人材をどう育成するか…「見て覚えろ」による弊害、暗黙知教材

社会教育の「専門性」を生かしてどう働くか

生涯学習センターの基本

人材育成

社会教育の「専門性」を生かしてどう働くか

- 11. 現場力の発揮
- 12. ネットでのコミュニケーション…個人完結の気持ち悪い世界、MAZEの復活を
- 13. 居場所づくり…「待ち」の教育 成果目標と教育目標
- 14. プロジェクト方式…同心円集団＝コアは3人で世界は変えられる
- 15. まちづくりにどう取り組むか…現代的課題より公共的課題、源流からの出発・商品開発
- 16. レクリエーションと冒険…未完の行為の完成、シフトアップ
- 17. 相互「視察」のアイデア…メンバー個人を主人公にする
- 18. 専門性のために…研究のすすめ

生涯学習センターの基本

1.生涯学習とは何か…「学習・文化・スポーツ・レクリエーション論」を超えて

価値創造

=

個人の充実とともに、地域での人々の学び合い、支え合いを進めるものである。
それは現代社会が強く求めている価値である。

●西村美東士「個人化の進展に対応した新しい社会形成者の育成」

UP

視点をシフト
アップしよう

学校教育，家庭教育，社会教育，文化活動，スポーツ活動，レクリエーション活動，ボランティア活動，企業内教育，趣味など様々な場や機会において行う学習

●文科省HP

2.社会教育とは何か …主体性の尊重を超えて

主体性
(認知・行為・評価)
の共育

=

相談の中で、「相談員も相談者とともに自ら主体性をはぐくむ」ということが大切
そもそもカウンセリングマインドとは…

●西村美東士「学習相談の意義・方法・課題」



社会教育法（第3条）：すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成する

「何でもあり」の社会教育 正解がない世界を生きる

3.生涯学習センターの役割・・・

生涯学習のさまざまなセンターのセンター

センターの
センターと
して、専門
的に関わる

=

家庭・学校・職場・地域・趣味など、生活のあらゆる場面や教育機関を関連付け、学習者が個人の生活全体で統一的・連続的に学びを享受できる社会システムというのが、生涯教育の「横の統合(水平的統合)」の理念である。それらのいわば「センターのセンター」が狭義の生涯学習センターである。



●佐野市生涯学習施設のとらえ方

センター機能：交流・育成・開発

AIに聞いたら、図書館まで「生涯学習センター」として回答があった。でも、あながち、間違いではない。

●23区の生涯学習センターについてAIに聞いてみた

若者文化研究所

4. ウェルビーイング (身体的・精神的・社会的に良い状態) …個人の幸福からの出発、「協調性」より「協働性」を

センター
がめざす
もの

=

センターではとくに「社会的に良い状態」を重視すべき。それは、「同調」「埋没」につながる「協調」ではない。まちづくりへの参画と協働による、個人の社会での位置づけ、自負、自信こそが、ウェルビーイングの新しい価値につながる。

●市民参画を実質化する生涯学習推進の方法論(序論)－佐野市の生涯学習諸会議でのワークショップスタイルの導入と成果



日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素とのバランスを取り入れ、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていく

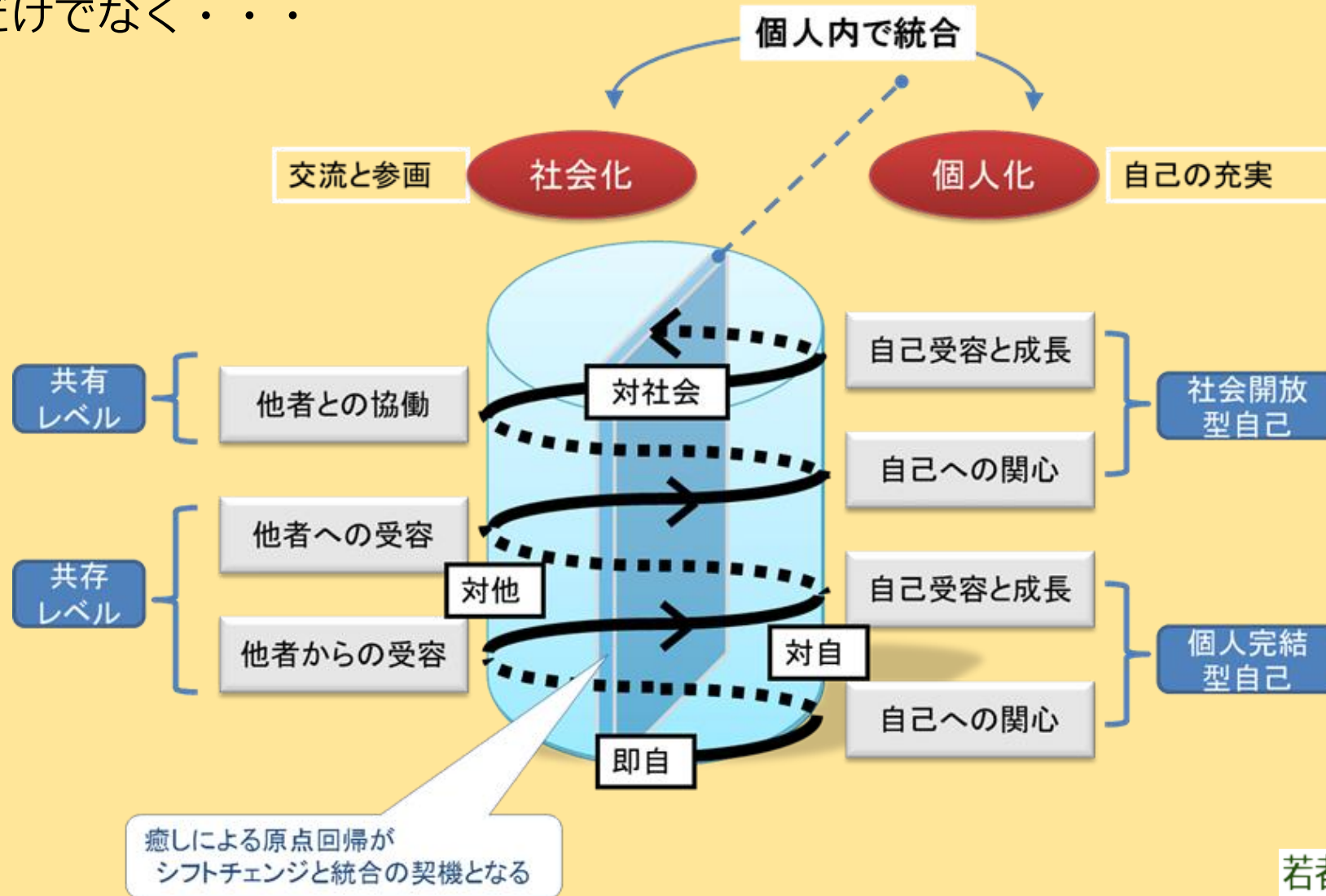
●ウェルビーイングの向上について (次期教育振興基本計画における方向性)

住民参画 社会性 個人の存在意義

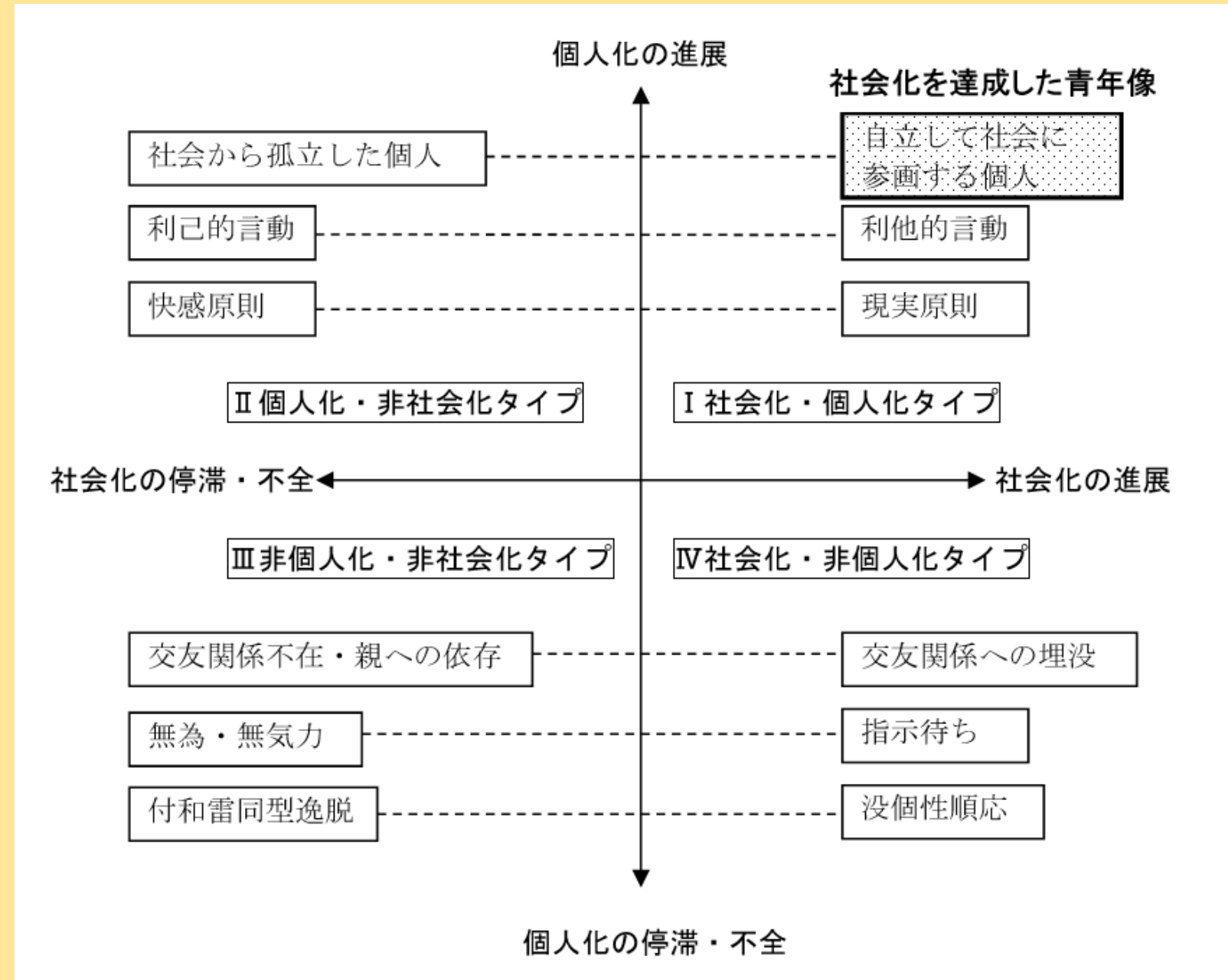
5.らせん状発展…シフトアップとは

【未定稿】意見対立を避ける若者たちー個人化・社会化の経年変化が意味するもの

今や若者だけでなく・・・

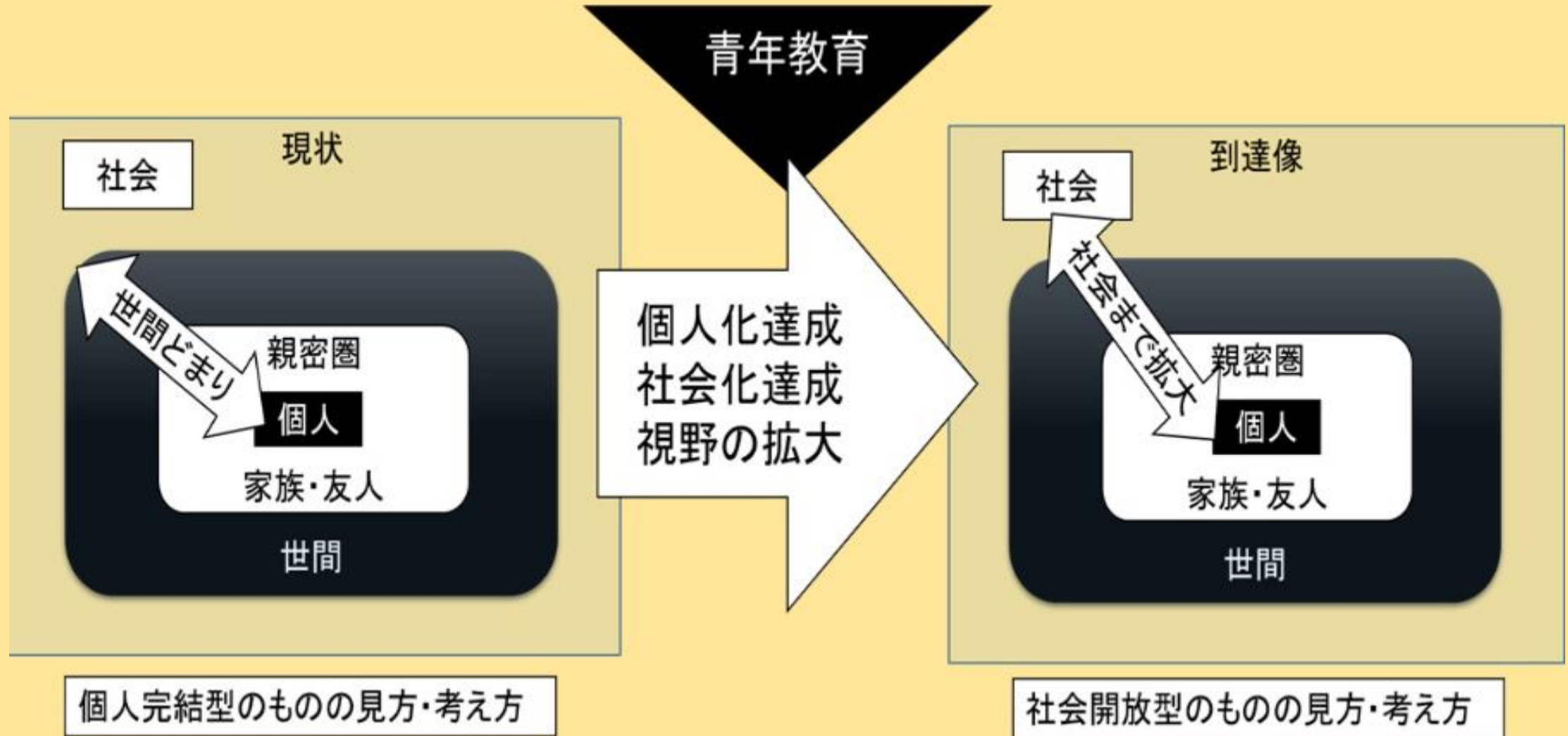


5_2.らせん状発展…個人化と社会化の一体的支援を



6.個人完結型から社会開放型へ・・・ 世間（主観）から社会（客観）への視野拡大

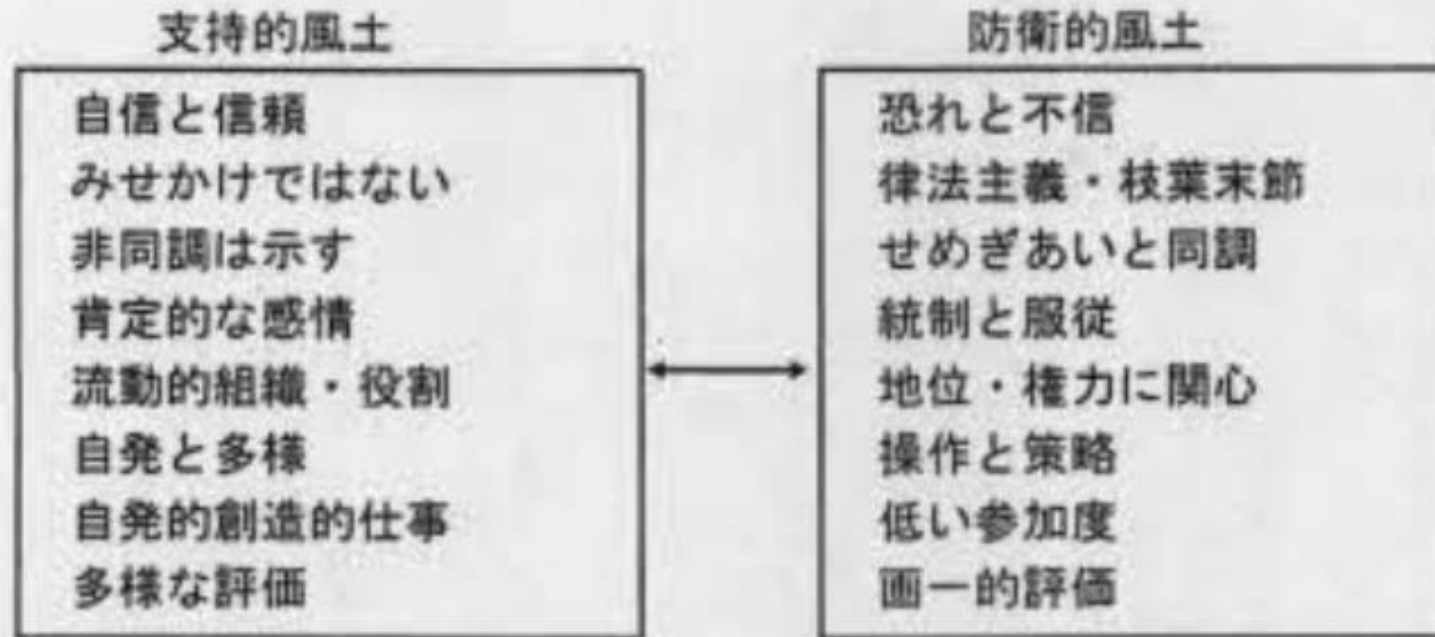
●[青年教育研究30年から見えてくるもの](#)



社会教育で実現すべき集団風土

□ 同質化とは異なる求心力＝防衛的風土から支持的風土へ

私は、その本質の一つとして支持的風土の形成を挙げたい。それは自己の充実とともに、社会参画能力にもつながるものと考ええる。



□ 支持的風土と防衛的風土の対比

生涯学習センターの基本…まとめに代えて 社会教育の専門性は戦後の公民館にある

寺中構想

1946年7月文部次官通牒「公民館の設置運営について」

①公民館は、町村民が相集まって教え合い、導き合い互の教養文化を高めるための民主的な社会教育機関である。②公民館は、町村民の親睦交友を深め、相互の協力和合を培い、以て町村自治向上の基礎となる社交機関でもある。③公民館は、町村民の教養文化を基礎として、郷土産業活動を振興する原動力となる機関である。④公民館は、町村民の民主主義的な訓練の実習場である。⑤公民館は、中央の文化と地方の文化とが接触交流する場所。⑥公民館は、全町村民のものであり、全町村民を対象として活動する。⑦公民館は、郷土振興の基礎を作る機関である。

各省庁が「市民参画拠点」として公民館に注目している
民間機関ではできません。公共機関だから、娯楽さえ
公共機関らしい娯楽ができる



癒しの公民館－新しき伝統

人材育成

7.目標をどう立てるか …非認知能力ではなく、必要能力習得を

クドバスのすすめ
[VEDAC\(職業教育開発協会\)](#)
[クドバスチャート](#)

[職業能力の見える化がもたらすものは何か](#)

非認知能力の問題点
[書評小塩真司 編著『非認知能力－概念・測定と教育の可能性』](#)

小塩氏の言うように「副作用」の恐れもある。「社会からの要請」に応えるというプラスの側面とともに、それに振り回されるというマイナスの側面もあるだろう。これに対して、教育の立場からは、教育的価値に基づいた「教育目標」の設定が不可欠だと評者は考える。

8.能力マップとラダー

…スキルマップでは人材育成はできない

スキルマップでは人材育成はできない

書評 能力開発の実践ガイド

知識・技能・態度に関する能力達成の教育目標を掲げて授業を行うことは、学校教育の基本である。にも関わらず、それらはいわば「冷たい」能力主義と誤解され、教育界にはこれまで強い抵抗があった。本書のようなクドバスなどの企業内教育の立場から学び、教育を、「人々の暮らしを支え、発展させるのに欠かせない活動」であり、達成目標を掲げて「血の通った温かな人間観を土台にして成り立つ」能力開発の活動としてとらえたい。

キャリアアップのためのラダーを示す必要がある

看護師の職業生涯とクリニカルラダー

9.タイプ別支援・・・個別最適な学びの支援は可能か、そして、それ以前の状態の打開を

個別最適な学び

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

生涯学習時代の学びとは

書評 サルマンカーン『世界はひとつの教室「学び×テクノロジー」が起こすイノベーション』

インターネットが普及しつつあるとき、プロイセン型モデルに固執する教育はいずれ、すたれていく。ネットのもつ自己選択性、進度自由性、双方向性を活用することは、学校教育、生涯教育のすべての学習者を救うことになるだろう。いつでも、いつまでも、納得するまで自分のペースで学ぶことができるのである。

それ以前の状態・・・人集めに追われている

10.人材をどう育成するか …「見て覚える」による弊害、暗黙知教材

暗黙知とはベテランの「[カンとコツ](#)」 [形式知化されていない](#)

暗黙知教材の作り方

[キャリア教育のための暗黙知教材の開発](#)

インタビューは3日やったらやめられない

専門家でなくてもよい(専門家でないほうがよい)

[出会いとしての生涯学習](#)

社会教育の「専門性」を 生かしてどう働くか

社会教育の「専門性」を生かしてどう働くか

問題点 職場環境の悪化 中途退職 事業継承ができない

地域の人の味方 ワンオブゼムではなく水平異質交流

若者が集まる公民館にするために一癒しのサンマづくりは公民館の古くて新しい役割

市民主体と全体の奉仕者としての私

アンテナをどう張るのか ニーズから出発 ただしプライオリティ

でも怖くて会話をしない 全部を受け止めきれない

松戸フリースペース元主宰 富田富士也 社会教育的だが「30分制限、断ることも大事」

一緒に検索する

本音を引き出す 明確化する 無駄話は打ち切る

その人の真実と出会う

敵対してしまう

人寄せではなく

引き出す 国立公民館平林さんのたまり場 肩を押す

市民委員の要望 聞くけど全体の奉仕者として

蓄積への固執を打破する 本質を理解したうえで

「ドリームキラー」は聞き流す

私は社会教育をする器ではない . . . ???

若者との協働による価値創造の新しい方向

11. 現場力の発揮

- 継承とともに、自分らしい企画をしたい
- 企画書を書く
- 指定管理者の場合 5 年で異動 存在価値はどこにある
- 指定管理後の展望 キャリアにもつながる
- 自由にやらせてもらいたい
- 骨格がはっきりしていないのに
- だが、変わることにそのものが怖い
- 現場力とは 職人と芸術家との違い
- ニーズと状況の変化への対応力 PDCA 指定管理の強み

12. ネットでのコミュニケーション・・・個人 完結の気持ち悪い世界、MAZEの復活を

意見対立を避けるという「共存の作法」が共有を妨げる
オンラインヘルプ

市民発信型双方向通信の課題

二次利用されたい著作権、自負できるプライバシー
MAZE ミスマッチ・アバウト・ジグザグ・イーザー

Aという意見とBという意見が交流してCという新しい価値を生み出す

13.居場所づくり…「待ち」の教育

成果目標と教育目標

図解：第3の支援

若者が集まる公民館にするために — 癒しのサンマづくりは公民館の古くて新しい役割
公民館が仕掛ける出入り自由のこころのネットワーク

居場所の
教育目標

=

「教育に絶望した教育学者」が居場所に淡い期待を寄せている。しかし、われわれは、「異質との交流」など、新しい教育的価値を創造しようとする目的を持っており、成果目標だけでなく、目的に沿った教育目標の設定が重要。

●青少年の居場所と生涯発達



萩原建次郎：居場所に必要なのは「見守る」こと。教育的空間からの逸脱こそ、居場所の意義。

西村書評：萩原建次郎『居場所－生の回復と充溢のトポス』

大学生の可能性 トランジション

14.プロジェクト方式…同心円集団 = コアは3人で世界は変えられる

同心円集団

住民参画 社会性 個人の存在意義
テーマコミュニティ 産業振興 参画活動として
大学とのコラボ 何かを研究したい市民は多い
市民参画の種を掘り起こす 市民ニーズから
新テーマの開発

こども家庭庁 参画協働へのチャンス

SWOT分析

Strengths（強み） Weaknesses（弱み） Opportunities（機会） Threats（脅威）

保育士教育における参画型教育の意義（発表資料）

15.まちづくりにどう取り組むか …現代的課題より公共的課題

SDGsウォッシュに要注意

SDGsは妥協の産物、プロパガンダ
G（ゴール）は未達に終わる

SDGsの理念は使いつつも、それ以上に、
市民とともに新しい価値を創造する。

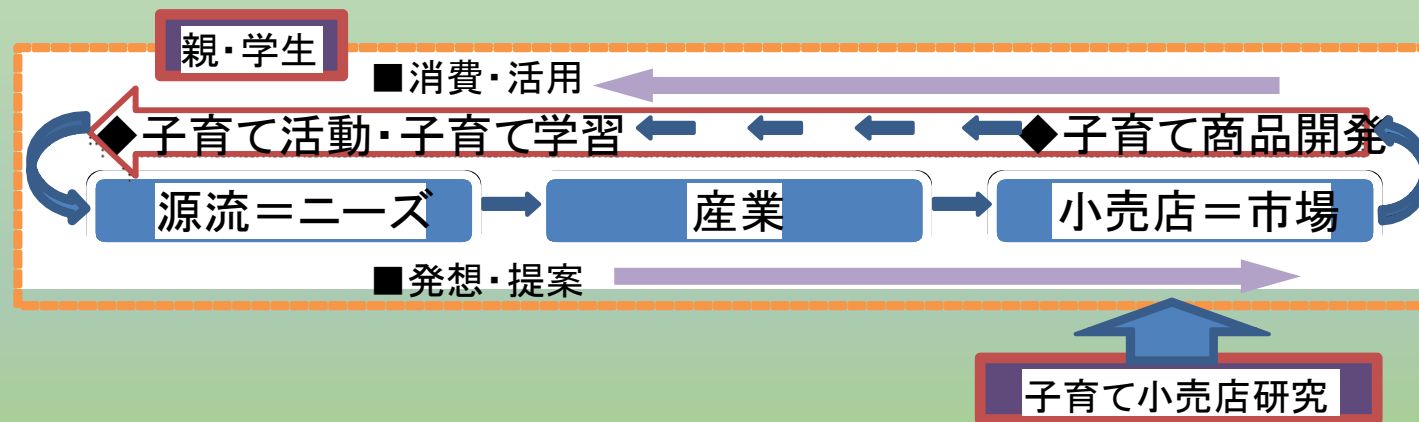
公共的課題の優先

15_2.まちづくりにどう取り組むか ・・・源流からの出発・商品開発

ユーザーニーズの把握に基づく子育て商品開発の授業実践

産業振興のまちづくりに生涯学習センターのチャンスがある

子育ての源流から市場へ，市場から源流へ



16.レクリエーションと冒険 …未完の行為の完成、シフトアップ

●ワーク・ゲーム集

高等教育的なワーク・ゼミによる若者支援の方法と効果

むなしい空騒ぎとの違い

気持ちの良い笑いが絶えないのがワークシヨップ

自己客観視によって、根拠のある自信を取り戻す

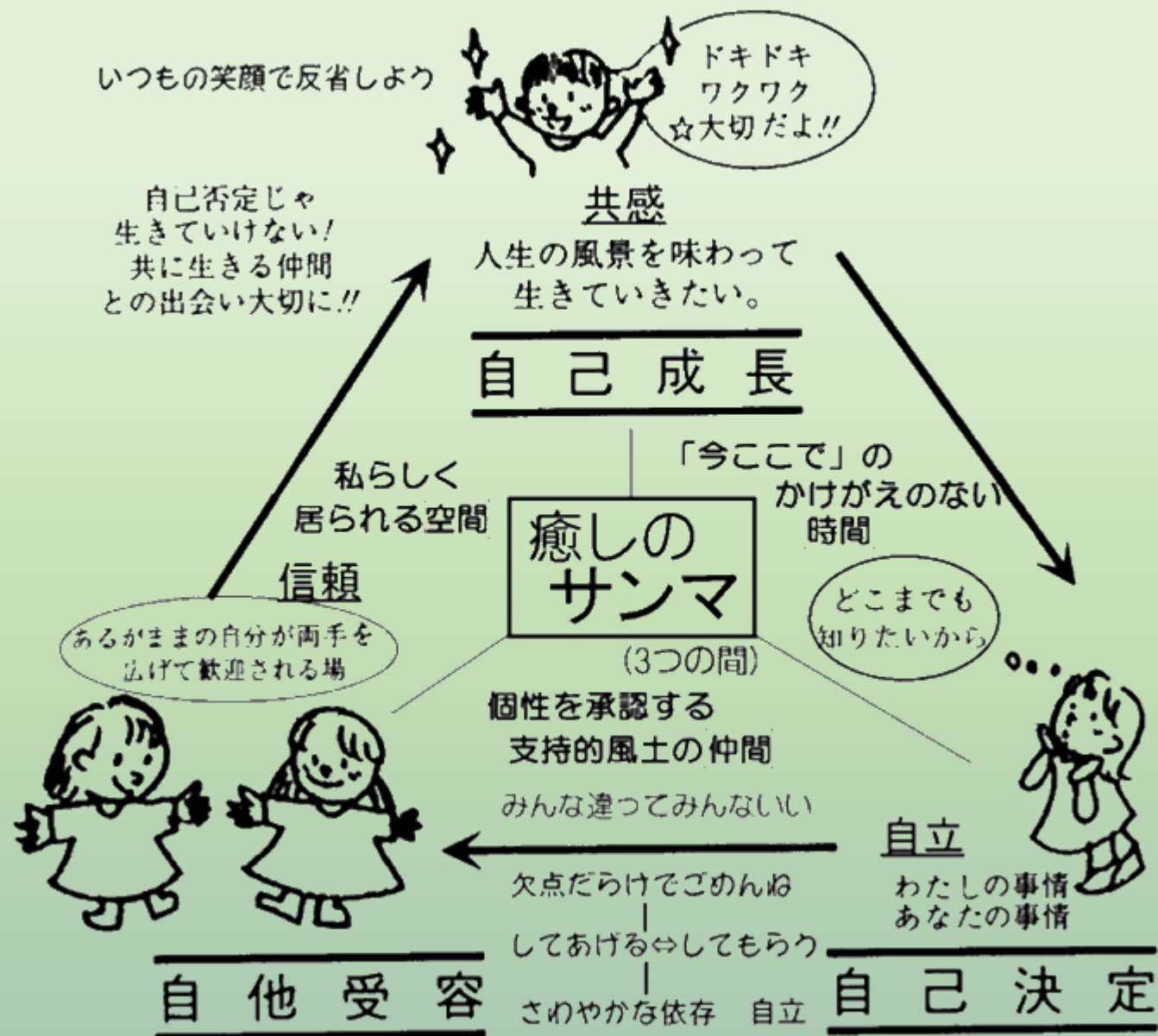
未完の行為の完成によるシフトアップ

立ち塞がっていたカベを乗り越えてみたら低かった

癒しと生涯学習

癒しと生涯学習

1. エスケープ
2. オリジン
3. ネットワーク



癒しのサンマ(2000年ごろ)

17.相互「視察」の勧め …でも、メンバー個人を主人公にする

狛プー 「視察はお断り」の意味
水平異質交流で「個の深み」と出会う
×上下同質

反みんな主義あぶれ者公民館願望

18. 専門性向上のために…研究のすすめ

自分だけの
仮説

- 論文 報告書 インタビュー チームで勉強会
- WEBを構築する

先行研究
への不満

- 先行研究を紹介するのではない。不満を述べる。

研究構想
図の作成

- [研究構想図](#)(例示＝一貫性を示す)

研究論文
にする

- 何度も書き直すつもりで
- [ヘルスケア・カウンセリング学会](#) 「育てる」という方針
- ウェルビーイングという観点から位置づける

生涯学習センター職員の専門的課題

- 私は何のためにこの仕事をやるのか
- 市民のウェルビーイングのために求められること
- （S W O Tでいう）機会・チャンスはどこにあるか
- どんな公共的課題にどうアプローチするか
- 市民にどのように役割を果たしてもらえるか

指定管理者社会教育ネットワークの展望

- ・専門職制度よりも、社会教育の専門的能力の確実習得を目指す
➡ キャリア選択肢の拡大と多様化を可能にする

